

1 . 一般事項

1) 提出書類等

あらかじめ設計図に基づ

施工図

木材調書

合板出荷証明書

施工する。

2) 変更・疑義

本施工計画の中で変更を
要と思われる問題が生じ
た本施工計画は工事施工

が発生した場合、または記載外で重
忍を得た後製作および施工する。ま
に周知徹底を計る。

2 . 材 料

1) 用材の適用・樹種等

木材は“製材の日本農林
のあるものを使用する。

ラワン材は特記のない限
材の品等は見えがかり面

用材は、いずれも腐れお

木材の断面指定寸法(施工

用材の見えがかりは、か

中仕上げおよび仕上げ削

フローリングボード張、

の下地材面は荒削りとす

または JAS 検査格付機関の証明書

および造作材は心去り材とし、化粧

材共、仕上がり寸法とする。

荒削りまたはプレーナ 1 回通し、

部は、砥の粉拭きとする。ただし、

良太上面および合板、石膏ボード等

2) 木材の含水率 (工場現場

A 種 (構造材、下地材

A 種 (造 作 材

含水率の測定は、高

3) 代用樹種

構 造 材 : 米松 1

壁、下地材 : 米桐 1

見

本

4) 使用木材の品種

a. 当現場における木材の使用箇所別品種

		部 材
構造材		米栂 1等
		米松 1等
	太	米松 1等
端柄材		米栂 1等
		米栂 1等
		米栂 1等
		米栂 1等
造作材		杉 集成材
		サクラ 集成材
		タモ 集成材
		米ヒバ 上小節
		タモ 上小節
		米ツガ 1等
		米栂 上小節
		スプルス
		杉 上小節
		桧 集成材
		タモ 集成材
		ケヤキ
		杉 集成材
		杉 集成材
		杉 集成材
		タモ 集成材
		マコーレ 集成材
		カバ 集成材
		米栂 上小節
		杉 集成材
押入・物置		スプルス
		アガチス
		米ツガ 上小節

集成材は表面単板、心材共 JAS 1等品

または

a . 当現場における木材の使用箇所別の品種

例 2

a . 使用材料

	使用箇所	備考
構造材	間柱	65 × 40
	押入野縁	40 × 33
造作材	和室柱	118 × 118
	和室鴨居	115 × 40
	和室敷居	118 × 40
	廻縁・付鴨居	
	押入棚材	
	額縁	t = 25
	ブラインドB	t = 25
	木枠・見切・	
	上り框	
	UB額縁	
新建材	押入内部	t = 5.5/9
	板タタミ	t = 15
	置き床	
	掲示板	t = 5.5
	床捨て貼り	t = 12
	炉縁・炉	
	丸棒手摺	40
	体育館壁	有孔 6 × @25
	体育館壁	t = 50 (24kg)
	物入内部	t = 5 . 5
	多目的室他壁	レ t = 6
	幼児室・音楽	
	羽目板	
	音楽室	白

b . 化粧合板その他

種 類
普通合板
石膏ボード
ポリエテル化粧合板
天然木化粧合板
縁甲板

ク表示品とする。
による。
設計図書による。
2 級（準不燃）とする。
加工化粧合板 1 類で、FW
ク表示品とする。
AS マーク表示品とし、樹
計図書による。
図書による。
厚 15 mm、巾 106 mm、長さ
る。

c . 金物および接着剤メ

釘 類	マックス株式会
	マックス株式会
	ヤマキ産業株式
	マックス株式会
接着剤	コニシ株式会社 酢酸ビニル樹脂 溶剤形接着剤
	積水化学工業株 酢酸ビニル樹脂 エマルジョン接

	下地材
50 mm	コンクリート～ 木材
mm	木材～木材
35mm	下地～合板
	コンクリート～ 木材
	木材～木材

3. 施 工

1) 施工に際しては本木工事
等を管理をするため作業

関係先と調整打合せ、工程・品質
が遅延なく完了するように努める

2) 取付け用材料と工法
木材の取付けおよび組立

レンガ等を使用する。

a. 釘類鉄丸釘 JIS A
木ネジ JIS B

上記による JIS マーク
造作材の釘打ちは、木
合は、450 mm ~ 600 mm
板類の場合は両耳に打
の等間隔打ちを標準と
また、造作材の化粧面

る板厚の 2.5 倍を標準とする。
とに、また下地材が添付けとなる場
物の場合は、釘間隔は 200 mm 以内
所に適したものとする。

b. 諸金物
ボルト、平カスガイ等
諸金物は、コンクリー
回塗り、精製タール焼

に彫込むものとする。
がくれとなるものは、防錆塗料 1

c. 接着剤
接着剤は、レットルを
造作材の接着間隔は 4
当現場使用接着剤（木

へ搬入する。
リートボンド：コニシ）

d. 防腐剤
防腐処理
常時湿気を受けやすい
ト油または同等以上の
いる。同等以上の表面
ある。

必要になる。そのためにクレオソー
2 回塗り付けることが定められて
材保存協会認定している製品が
ピッチ加工タール、舗製タール）

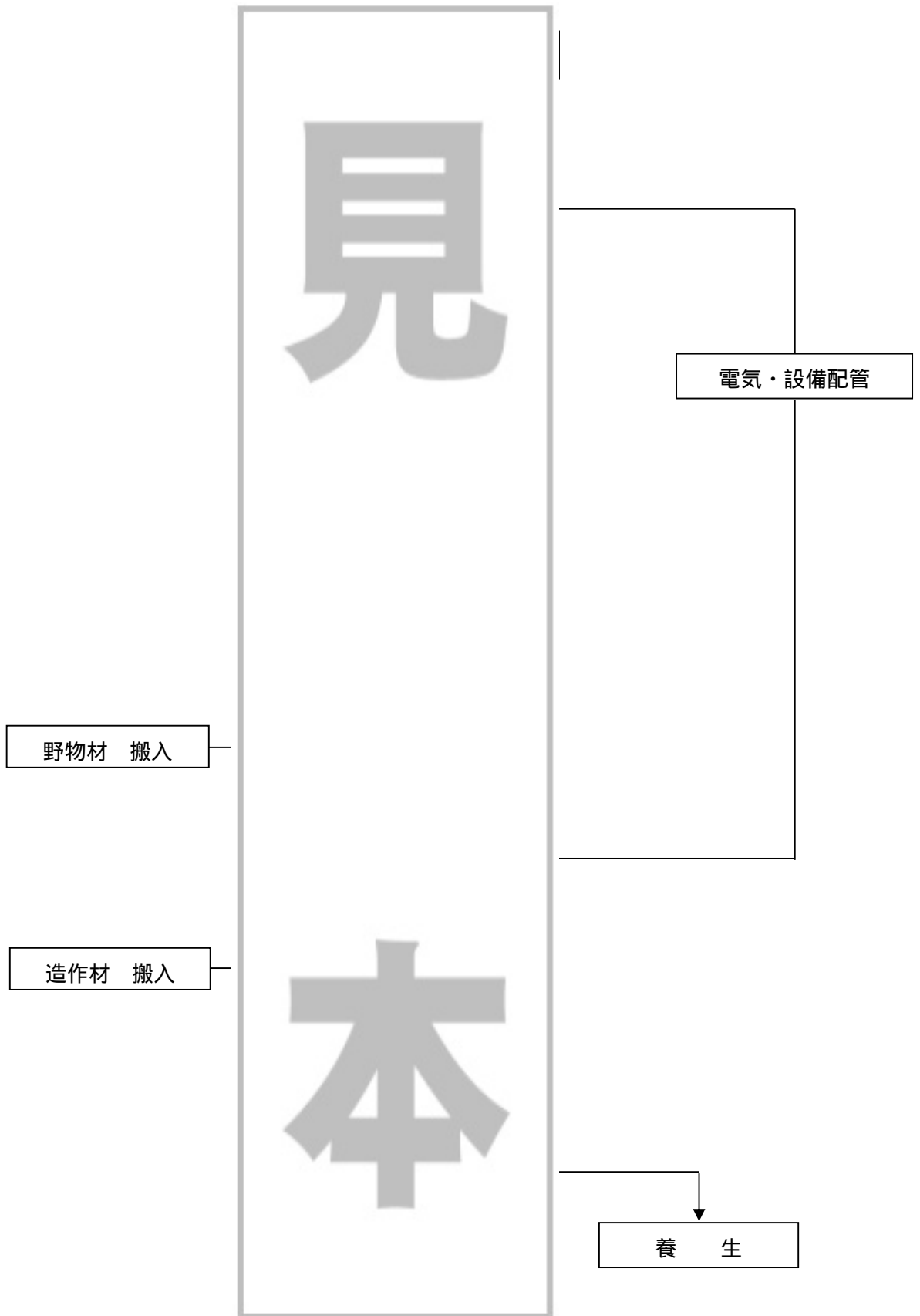
木材防腐剤は、JIS
に適合するものとす
当現場に於いてはス

適用箇所（床組み材

る泡水性のものに接する部分。（接

着剤塗布部は除く）

c . 木工事フローチャート



4) 材料搬入

搬入部材の取込みは大工が行い、材料指定品等場所を置く。
仕事場は整理、整頓し、
サッシ、ガラス等他の
置き場所は後施工に支

5) 各施工要領および注意事項

- a. 基準墨より木工事納ま
間仕切芯は基準墨より
水平墨は床スラブと掃
納まりが悪く変更しな
- b. サッシ額縁取付

サッシ額縁はアングル
つける。組み立てる。
アルミサッシ額縁アン
し釘止めとする。
額縁ビスは曲り、ビス
コマ付けは@450 前後
タテと上下の仕口は、
長物の継手は、ほぞ掘
ステンレスビスの曲り

- c. カ - テン B O X 取付
カーテン BOX の組立
取付けは水平・垂直に
天井埋込型なので前板
40×36@600) を立て

- d. 間仕切軸組
頭つなぎ、脚固め
- ・継手は目違い継ぎ、
使用する。
 - ・コンクリート面に接
によって締め付ける
- 見え隠れ柱
- ・上端は短柄差し、下
釘は鉄釘 50 mm または
- 間 柱

- ・ 450 mm 間隔とし、上端、下端とも突き付け斜め釘打ちとする。
- ・ 釘は鉄釘 50 mm または 65 mm を使用する。

室に配置する。

る。
承諾を得る。

でスキ間のない様に注意して止め
引、堅枠は柄入れとし接着剤併用隠

-ボンドにて固定する。

きれいに払う。

施工図とか、略
図などで示す。
それが無ければ
消す。

を打ちその上から吊木 (米梅 1 等
(別紙 - 3)

釘は鉄釘 50 mm または 65 mm を

内の間隔に径 9 mm の埋込みボルト

を欠き込み、釘打ちとする。

壁胴縁

- ・横胴縁は 450 mm以内とし、縦胴縁は 450 mm間隔とする。(化粧合板貼り部のみ 303 mm以内とする)
- ・柱および間柱に欠き釘は鉄釘 50 mmまたは

受材心で突付け継ぎとする。

e . 開口部枠、間仕切造作 開口部枠

- ・ 縦枠：開きの場合は
接着剤併用釘
釘はユニクロ
- ・ 上枠： 上記による
- ・ 下枠： 上記による

付きとする。

くりとする。

組立て

- ・ タテ枠上下は、えり
- ・ 無目(中鴨居)両端
- ・ 中束上下は、短ほど
- ・ 釘はユニクロ釘 65 mm

ちとする。

とする。

取り付

- ・ 枠の高さおよび巾は
より取り、建入れは

および床およびスラブ面に出した墨

敷居：柱または
敷居下端
釘はユニ

釘止めとする。

内にくさびを飼い釘打ちとする。

中鴨居：柱または
釘はユニ

止めとする。

天鴨居：柱または
釘はユニ

釘止めとする。

f . 床下地組

土台はアンカーボルト
コンクリートに接する
床組み用パッキンの樹

応じて定める。

g . 天井野縁組

野縁受材

- ・ 間隔は 900 mm以内とし、継手は、添え板を当て釘打ちとする。
- ・ 釘は鉄釘 50 mmまたは 85 mmを使用する。

野縁受け

- ・柱、間柱および木レンガの芯で突付け継ぎとする。

野縁

- ・間隔は 455 mm以内とし、突付け釘打ちとする。

吊り木

- ・間隔は 900 mm内外とし、突付け釘打ちとする。
- ・釘は鉄釘 50 mmまたはステンレスパネル釘 25 mmを使用する。

h . 見切および巾木取付

- ・取付に際しては、水切り用接着剤とビス併用で取付ける。
- ・継手は突付けとする。

i . ボード張り・合板張り

木造下地の張り付けは 150 mm内外の間隔に釘打ちする。ただし、合板で厚さ 12 mm以上のボードは、石膏ボードはステ

ンレスパネル釘 25 mmを使用する。壁石膏ボードの柱、タテ板、壁合板の柱、堅枠、鴨居

j . 腰壁合板貼り

取付に際しては水平・垂直にビス併用で取付ける。(ナラ材は接着剤と両面テープ併用)

k . 付鴨居、押入造作その他

付鴨居・畳寄せ・ボード

- ・両端は木口を殺して突付け釘打ちとする。ただし、畳寄せ、

- ・釘はユニクロ釘 50 mmを使用する。

戸当り

- ・間隔は 240 mmとし、

押入造作

- ・敷居、鴨居は前項に準じて取付ける。
- ・中棚のかまちは棚板に突付け釘打ちとする。
- ・根太掛けは両端を柱へ欠き込み胴縁に添え付け釘打ちとする。
- ・根太は框、根太掛けに彫り込み、釘打ちとする。
- ・釘はユニクロ釘 65 mmを使用する。

る。取付けは野縁受け下面に添え付け釘打ちとする。

付け釘 2 本打ちとする。

着剤とビス併用で取付ける。

目違い等のないよう、受材に 150 mm以内の間隔に釘打ちする。

し、合板はステンレスパネル釘 25

mmとし、継手は面取り突付けとする。継手も突付けとする。

のないように接着剤と両面テープ併

4)

につぶし釘打ちとする。でもよい。

- ・ 棚板合板は受材芯で突付け継ぎとし、根太へ釘打ちとする。
- ・ 釘はステンレス釘 25 mmを使用する。雑巾摺りも同様とする。

- 1 . 和室造作および床組
和室造作は、水平・垂直に
ける。(別紙 - 6)
床組は水平に十分注意

十分注意しぐらつきのないよう取付

(別紙 - 7)

- 6) 養 生
 - a . 工事中に汚染、損傷等()
の方法によって養生す
 - b . 化粧材については包装

かり部分は、砥の粉拭き、あて板等

- 7) 自主検査・手直し
 - ・ 工事担当者が下記項目に

見

本

自主検査

1	サッシ額縁
2	カーテンBOX
3	見切および巾木
4	和室造作
5	腰壁合板貼
6	

手直しはチェック
他業者にからむ手



の確認を得る。
指示を仰ぐ。